



初雁自由政令会 **中原 秀文** 


財源確保のための企業誘致 6

問 データの多角的な分析なども含めたEBPM（証拠に基づく政策立案）による財源確保の観点からの企業誘致について、市はどのように考えているか。

答 産業観光部長 昨年度、地域経済分析システムRESASを活用した政策立案ワークショップに参加することで、初めてEBPMによる企業誘致施策の検討を行ったが、今後、人口減少と高齢化に伴い、本市においても個人住民税などの税収減が想定されるので、法人市民税や固定資産税など、企業からの税収増加を図るために、関連部署との連携を強めながら、EBPMによる企業誘致を推進していく。

副 EBPMによる財源確保




川越志政会 **松本 きみ** 


子育て情報の提供 7

問 子育て施設の充実により異なる分野の専門家が連携を図るべきだが、幼稚園や保育園等の相談環境をより良いものとするため、市はどのように考えているのか伺う。

答 こども未来部長 本市では、保育課、子育て世代包括支援センター、子育て支援センターなど、さまざまな施設や事業を通じて悩み事や相談に対応しているところだが、子育てをする人の環境はさまざまであり、子育てに関する情報が十分に伝わっていない場合も考えられることから、身近にある相談窓口のさらなる周知、関係機関における情報共有や連携、子育てに関する積極的な情報発信に努め、より相談しやすい環境の整備を図っていく。

副 子育て支援施設情報共有



無所属 **小林 薫** 

市長のわいせつ行為疑惑 8


問 市長は女性にことわって手をつなぐのはセクハラではないと答弁しているが、一般論としてことわる事自体がセクハラだと思うが、市長の認識は。


答 市長 一般的にはその当事者の立場、状況によってセクハラになるかどうか決まると考えている。

社会的にどこまで許容できるかは、状況、時代によって全く違って来るから一概には言えないが、今の社会においては、手をつなぐ行為はことわれば問題ないであろうと一般的には考えられていると私は考えている。



副 市長のわいせつ行為疑惑



公明党 **嶋田 弘二** 

樹木の管理について 9


問 市が管理している都市公園において、樹木医に樹木の健全性を把握させることについての考えを伺う。


答 都市計画部長 日常点検では発見しづらい樹木の内部の状況などは、樹木医による腐朽状況などが分かる精密診断を行うことで発見することが期待できる。

市内の事例としては、富士見櫓跡にある巨木となったクスノキについて、樹木医による精密診断を行い、維持管理を進めており、シンボルツリーや巨樹、古木等の剪定、将来にわたり残すべき樹木の保全等については、必要に応じ、樹木医に意見を求めるなど活用していきたいと考えている。

副 鳥獣被害

副 樹木の管理



公明党 **須藤 直樹** 


高齢者支援体制の充実を 10


問 介護予防の効果、生きがいの体験を広げるために、地域の互助の力は欠かせない。今後、地域包括ケアシステムの充実を図るために、市はどのように考えているか。

答 福祉部長 今後も、地域包括ケアシステムの5つの構成要素である住まい・医療・介護・生活支援・介護予防の有機的な連携・結び付きをより強化していく。

また、高齢者を支える生産年齢人口の減少も見込まれているため、高齢者一人一人が健康づくりや介護予防等に取り組む自助、地域におけるボランティアなど支え合いや助け合いである互助の取り組みのさらなる推進を図り、地域包括ケアシステムの充実を図っていく。

副 高齢者支援



公明党 **鈴木 謙一郎** 

教職員の負担軽減を 11

問 川越市の教育現場がより働きやすく、やりがいのあるものになるための、今後の教職員の負担軽減の取り組みの方向性について伺う。

答 学校教育部長 中学校の休日の部活動の地域移行について検討を進めるとともに、スクール・サポート・スタッフの拡充を図っていく。さらに、教員定数の改善について、あらゆる機会を捉え、引き続き、国や県に要望していく。今後、学校以外が担うべき業務を検討するなど、保護者や地域の理解や協力を得ながら、教員が教育活動に専念できるよう、負担軽減の取り組みを進め、教育の質の維持向上に取り組むことも今後の方向性と考える。

副 小中学校の諸課題